

退職に当たって：短すぎる思い出

平山 琢二

生物資源管理学科

2015年6月に着任して約3年、瞬きをする間もなく去ることになってしまうことになりました。その間、卒論や修論などで計14名、以下に示した主なテーマで指導してきました。

- ・家畜生産現場におけるアニマルウェルフェアに関する研究
- ・有害駆除した害獣の利活用に関する研究
- ・飼育展示下動物の環境エンリッチメントに関する研究
- ・伴侶動物の癒やし効果に関する研究

テーマの幅の広さが目につきます。ここに赴任する前までは主に畜産を志す学生たちの指導を行ってきましたが、ここでは野生動物の管理やペットや動物園動物などとても幅広い範囲を対象としたテーマを扱いました。この学生が畜産のみではなく、周辺領域にある動物たちへも興味や関心が高く、そのようなことから、このような幅の広いテーマを扱うことになったのだと感じています。それにしても、初めて取り組んだテーマも多く、何かと勉強する機会が増えた期間でもありました。特に有害鳥獣の管理については、対象動物に触れること自体も初めての経験でした。

これまでの私の研究のほとんどが現場を対象としたもので、まずは現場を知ることが常に最優先し、そこから課題抽出などを行い、研究に繋げていきました。有害鳥獣の管理についても、まずは狩猟免許をとり、有害駆除現場を知るということを最優先で取り組みました。狩猟免許を取得し、猟銃や火薬類の所持申請から実際に持てるまで実に半年を要しましたが、地元の猟友会の方々の協力のおかげで比較的スムーズに準備ができたのかなと感じています。その後、猟友会メンバーに誘われて何度となく猟にでかけたのですが、なかなか射撃チャンスに恵まれなかったのですが、3度目の猟で初めて撃った弾が見事に雄シカを射止めました。それ以来はさっぱりですが、猟を通して有害動物の駆除に携わりながら、課題の探り出しをしており、駆除した動物の利活用問題や、被害を受けた後の回復作業などの課題が出てきました。駆除された動物の利活用については、食肉の利用から骨や皮などの利活用まで携わっています。このおかげか、研究室はシカやイノシシの毛皮や骨、さらにヌー

トリアなどの小型の動物の骨や毛皮で賑わっています。被害後の回復については、農地の場合は比較的速やかに回復できるものの、自然景観や生態系の回復は自然任せでは厳しく、極めて重要な課題であると考えており、伊吹山の被害地域を中心にその復旧に関する取り組みを行ってきました。このような取り組みは山歩きの専門雑誌である「山と溪谷」に紹介されたりもしました。また、県の鳥獣害対策課と共同で有害鳥獣の利活用に関するセミナーを開催したりと、短い期間ではあるものの、まずまずの足跡を残せたかなと考えています。個人的には農水省から野生鳥獣害対策アドバイザーに認定され、全国各地で指導を行って来ました。少しずつ現場に慣れ、地域での活動もしやすくなってきて、これから研究の部分に力を入れていこうかなと考えている時の異動となってしまい、少し残念な気もしますが、今後につながるとても貴重な経験を積んでいけたと考えています。



有害鳥獣の管理以外にも、展示動物の環境エンリッチメントに関する取り組みでは、赴任当初から三重県の鳥羽水族館との共同研究を行いながら進めてきました。これまでジュゴンに関する研究では、オーストラリア、フィリピン、ベトナム、中国などを中心に、それらの関連大学と連携しながら生態調査をメインで行って来ました。ここに赴任してからは、飼育展示下のジュゴンを扱うようになり、鳥羽水族館で飼育されるジュゴンを用

いて、調査を行い、色々な面で新しい発見に多く出会ってきたと思います。鳥羽水族館で飼育されるジュゴンは30年という長い飼育成績を有していることから、特に野生個体とは異なった特異的な行動が多くみられ、とても興奮したことを思い出します。ジュゴンは世界的にも3頭が飼育されるのみで、とても貴重な飼育個体となります。他の2頭はオーストラリアのシドニー水族館で飼育されています。そのオス個体もとても特異的な行動をみせていました。飼育下個体を用いた調査では、詳細な行動調査が可能で、とても興味深いデータも学生が得ており、今後の進捗が楽しみな研究でもあります。ちょうどジュゴンの国際シンポジウムもあり、学生にとっても良い経験になったと思います。

赴任前から聞いていましたが、赴任して改めた感じたことに“学生との距離が近い”ことです。前の大学でも学生との距離はとても近く感じていましたが、ここはさらに近い感じを受けました。色々意見はあると思いますが、私はとても良い環境だと思います。最近のような色々なハラスメント問題がある中で、この距離感はとても貴重なものにも感じています。この伝統？はこれからも引き継がれていけば、と感じております。おそらく教員同士の仲の良さも、このような関係に一役買っているのでは？と感じます。とても貴重な経験をありがとうございました。

4月からは石川県立大学に移動します。3年に満たない本当に短い間でしたが、とてもとても貴重な経験を濃密に楽しむことができました。学科の皆さまをはじめ、学部の皆さま、さらには事務の方々にも大変お世話になりました。心より感謝の意を表します。ここ滋賀県立大学で学んだことを活かしながら、移動先でもめいっぱい楽しんでいきたいと思います。石川県大では、畜産の管理学について教鞭に就きながら、県畜産の振興にも尽力できればと考えています。また、これまで頑張ってきました野生鳥獣の管理についても無理のない範囲で継続していきたいと考えています。いずれにしても、金沢へお越しの際は、是非とも石川県大まで足を伸ばして下さいと思います。皆さん！ありがとう！！そして、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます！！



ピタパンカレー 

